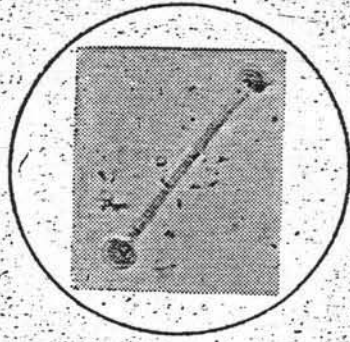


公害病の周辺

石綿肺



患者の胸から検出された石綿の繊維(長さは約5マイクロメートル)。繊維の先端は鋭い針先がくさくさした石綿小体となつてゐる。

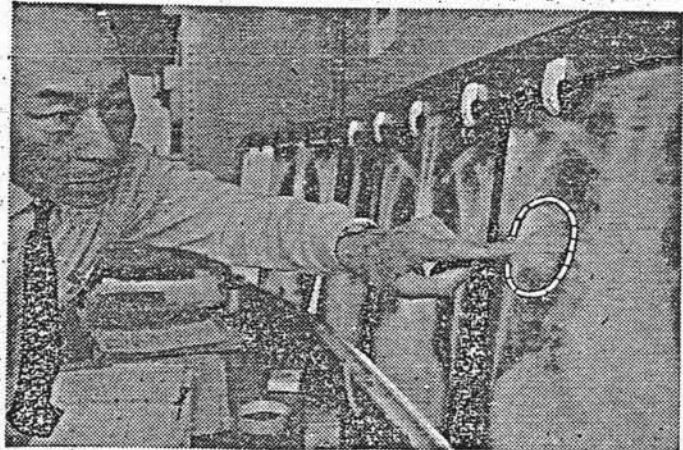
★息切れがひどい

大阪市内で洋服の仕立て屋をしてゐるAさん(53)は五、六年前から息切れがひどく、肺炎をよべ起すようになった。数か所の病院をまわつたが原因がわからない。昨春秋、国立療養所近畿中央病院(大阪府堺市)の瀨良好彦(よしま)院長の診察を受け、ようやく石綿肺と診断された。

石綿肺は、空気中のチリに含まれる石綿が肺にたまり、肺の機能が低下して低下的病気になる。カナダなどでは石綿を加工する工場や石綿鉱山で働く人の職業病として古くから知られてゐる。

Aさんは石綿加工工場で働いて

のケースは、石綿を直接取り扱う作業員だけでなく、一般環境



肺ガンを併発した患者の엑스線写真を調へる瀨良院長(点線内の白い部分が肺ガン)

第二位である。不燃性、絶縁性、吸着性、吸着性といった特性が買われて、現代生活の中へとどんどん溶け込んでいる。たとえば自動車ブレーキのライニングと呼ばれる部分にも使われており、ブレーキを踏むたびに石綿はチリとなって大気中に舞う。東京大公共衛生学教室は東京・本郷の交差点で大気中のチリを測

うの話だが、一昨年、アメリカのヒツパルク市で一般入会人を解雇したところ、九十七人の肺から石綿が見つかつてゐる。いったん肺にはいった石綿の粉じんはほとんど出てこない。Aさんのように汚染源から遠ざかつていても症状ははじまると思つてはやく、さうにやっかいなことは石綿肺になつたあと肺

ガン併発のおそれ 大気中に充満、規制なし

多発するところをわが国で初めて見つけた瀨良院長は「二十八年ごろから」と二月までに三千一人が石綿肺で入院、うち十五人が死亡した。三十四年に女々なつた患者を解剖すると肺ガンを含併していたことがわかり、たいへんなことになつたと思つた。解剖した十三人のうち六例は肺ガンで、石綿肺と肺ガンがきわめて深い関係にあることを示してゐる。さうして、この病院に入院した人は患者の一部と思われるから、まだ患者がいると考えねばならぬ」と話す。

★消費ふえる一方

石綿の消費量はGNP(国民総生産)の伸びに比例して伸び、昨年は五、七割増のトナック五万七千四百台分にあたる二十八万五千トン(通産省調べ)が使われた。この量はアメリカについて世界

中でも石綿肺が起つてゐるケースと似た症例である。

定石綿の繊維を検出している。セメントに使つて石綿スレートや石綿ボードにしたり、エンツ、壁や天井などの新建材、天井や壁への吹きつけなど、成長産業として使用量はあえる一方、こうした産業に従事する人だけがでなく、一般人にも汚染の機会が高まつてゐる。海に向い

ガンのなるケースが多い。労働省労働基準局が昨年調べたところ、石綿製品をつくつてゐる企業は全国で五百五十三社、従業員三千六百八人。このうち三千社(千人)は大阪府の泉南地方に集中してゐる。近畿中央病院にはこの地方の石綿肺患者が入院する。石綿肺患者は肺ガンが

(注)石綿(アスベスト)はカラン石など地熱で溶けた地中で凝結するとき、炭酸ガスや地下水の影響を受けて細長い繊維状に結晶したもの。主産地はカナダ、南アフリカ連邦、ソ連で、わが国はほとんどカナダからの輸入にたよつてゐる。